営農情報

稲作

【登熟を促す水管理】

①出穂後30日間は間断かん水で土壌水分を保ち、稲体の活力を維持して、登熟と米粒の肥大を促進します。早期落水は根の活力を低下させ、品質低下や倒伏を助長させます。

②高温時（日中30℃以上、夜間25℃以上）は、入水・湛水により地温低下と水分供給に努めます。台風やフェーン現象で乾燥した風が強い場合は、湛水管理として、稲体の急激な水分蒸散による消耗を軽減します。

カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、出穂前後3週間（7月15日頃～8月25日頃）は湛水管理（田面を空気に触れさせない）を厳守してカドミ吸収を抑制してください。

出穂当初は、水を多く必要とする時期（10日間くらい）なので、5～6cm程度の湛水とし、それ以降は2～3cmの浅水、間断かん水とする。

また、ここ数年は乳白粒やクサビ米等の高温による被害が見られます。これは、刈り取り時期のほ場条件を気にして出穂以降の入水を控える、早期落水するほ場に多く見られます。

気温が30℃以上の時は、用水が十分確保できる場合は、かけ流し等を行い、地温を下げ、稲体の健全化に努める。

時期	水管理
出穂初め～10日	５～６cmの湛水管理。水を切らさない。
出穂後11日～20日	根の活力維持のため間断潅水 （２日湛水、３日落水）
出穂後21日～30日	田面は足跡がつく程度の硬さ。 ヒビ割れで根を切らさないこと。
出穂後31日以降	排水の良否を考慮しながら落水。 早い落水は食味低下。

※落水は、出穂後30日を目安にして行いましょう。

【斑点米カメムシ類】

本年は斑点米カメムシ類の発生が多いことから、茎葉散布剤は出穂期10日後頃と24日後頃の2回散布してください。

カメムシ類の本田への侵入を防止するため、1回目（出穂10日後頃）の茎葉散布剤の散布後に畦畔や農道の草刈りを実施します。その後は、収穫2週間前（9月20日頃）まで、草刈りを控えてください。

【斑点米カメムシ類の防除薬剤】

薬　剤　名	濃度	10ａ散布量	収穫前日数
スタークル粉剤DL スタークル液剤 10	― 1,000 倍	3 kg	出穂期10日後頃
【追加防除薬剤】 キラップ粉剤ＤＬ キラップフロアブル	― 2,000 倍	3 kg 150ﾘｯﾄﾙ	出穂期24日後頃

6月			7月			8月			9月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
アカスジカスミカメ			成虫侵入　産卵			幼虫発生					
出穂期後日数			0	7～10		21～24		28～34			

6月上旬から稲の出穂期10～15日前まで

出穂期　薬剤散布　薬剤散布　収穫期2週間前　収穫期

草刈り２～３回　草刈り　草刈り